

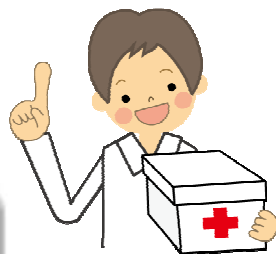
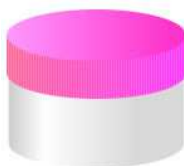
2012年10月



10月17日～23日

「薬と健康の週間」

「薬と健康の週間」とは、医薬品を正しく使用することの大切さ、そのために薬剤師が果たす役割の大切さを一人でも多くの方に知ってもらうために、ポスターなどを用いて積極的な啓発活動を行う週間です。



薬を安全に使うために

○お薬手帳を活用する

「お薬手帳」に自分の使っている薬の記録をつけておくと、医師や薬剤師に薬の名前などを正確に伝えることができます。副作用・アレルギー歴なども記録すると、さらに安全に薬を使うことができます。



また、常に持ち歩くことにより災害などの緊急時にも役立ちます。いくつかの医療機関を受診している場合も、お薬手帳は1冊にまとめておきましょう。

○注意が必要な人

副作用は必ず現れるものではありませんが、次に当てはまる人は特に注意が必要になりますので、医師や薬剤師に相談しましょう。

- ・アレルギーのある人
- ・妊娠している人、授乳中の人
- ・高齢者
- ・過去にひどい副作用を経験している人
- ・肝臓、腎臓など薬の代謝に関わる臓器に疾患のある人
- ・他にも薬を飲んでいる人
- ・仕事などで特別な環境にある人（高所作業者、ドライバーなど）



○異常を感じたら…

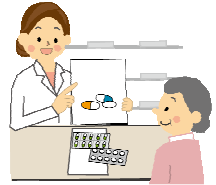
薬の使用中に異常を感じたら、すぐに医師や薬剤師に相談してください。薬の種類によっては、自己判断で急に中止すると危険なケースもあります。医師や薬剤師に相談する際には「何を、どのくらいの量、どのくらいの期間使用し、どのような症状が出たのか」を説明できるようにしておきましょう。



薬の正しい使い方

○説明文書をよく読む

薬には必ず説明文書（病院や薬局からもらう説明書、一般用医薬品の添付文書）が付いてきます。用法・用量・効能などのほか、使用上の注意、副作用に関することが記載されています。必ずよく読んでから使用するようにしましょう。



○服用のタイミング

薬は、それぞれ決められた時間に飲まないとも効果が現れにくく、副作用を生じることもあります。

食前：食事の30分くらい前

食後：食事の後30分以内

食間：食事と食事の間、食事の2時間後が目安



○用法・用量

薬は、決められた量よりも多く飲むとよく効くというものではありません。逆に、副作用が現れやすくなります。用法・用量を守って服用しましょう。

○薬の形状

錠剤、粉薬、カプセル、シロップなど、薬には色々な形状があります。治療効果を高めたり副作用を防ぐために、それぞれ適切な形状で作られています。形状によっては使い方に注意が必要なものもあります。詳しくは、医師や薬剤師にお尋ねください。

答え

- A1. ④少量だと薬が喉や食道にはりつき、炎症などをおこすことがあります
- A2. ①授乳中の方は必ず医師と薬剤師に伝えましょう
- A3. ②その人にあわせて処方したものですので、人にはあげないでください

お薬 Q&A

Q1. 薬はどのくらいの量の水（または白湯）で飲んでいますか？

- ①なし ②1/3 ③1/2 ④コップ1杯



Q2. お母さんが薬を飲むとそのお母さんの母乳を
飲んでる赤ちゃんに影響はありますか？



- ①ある ②ない

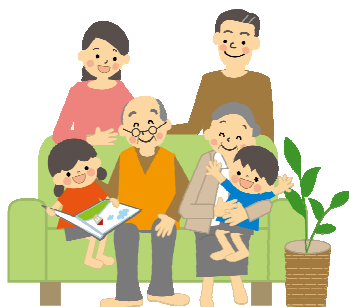
Q3. 病院で処方された薬を他の人にあげてもよいですか？

- ①はい ②いいえ

※答えは前のページ下にあります

薬は正しく使ってこそ、その効果を最大限に引き出すことができます。不安なことや分からないことは医師・薬剤師に相談し、正しく使用しましょう。

（ 「知っておきたい薬の知識」 厚生労働省・日本薬剤師会 参照）



オーロラ薬局

TEL 019-635-1233

FAX 019-635-4555

オーロラ薬局 沼宮内店

TEL 0195-61-3883

FAX 0195-62-6868

オーロラ通信はバックナンバーを含めホームページでもご覧になれます。

<http://www.iwate-aurora.com/>